



組織的な大学院教育改革推進プログラム（旧：大学院教育改革支援プログラム）
平成 20 年度採択

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

平成 23 年度(秋) 前期課程ガイダンス資料

奈良女子大学大学院

人間文化研究科

<2011年9月版>

博士前期課程

国際社会文化学専攻

人間行動学専攻

住環境学専攻

生活文化学専攻

■■■目次■■■

■カリキュラムと授業	2
■関連する授業一覧	3
■授業情報	4
■学習支援体制	5
■自主活動支援事業	6
■本プログラムの概要	8

組織的な大学院教育改革推進プログラム

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」ガイダンス資料

発行 代表 出田和久

発行日 2011年9月30日

作成 大学院 GP(人社会系)事務局 (E154 室、0742-20-3523)



■カリキュラムと授業■

●科目群とは

本研究科は、前期・後期両課程を通して、男女共同参画社会をリードする研究者および高度専門職業人の養成を目的として掲げています。このプログラムに参加する5専攻のカリキュラムは、この目的を達成するために下記のような科目群を設定し、キャリア形成を念頭においた科目選択を支援しています。

○研究マネジメント群およびキャリア形成群○

研究者あるいは高度専門職業人としての研究推進とキャリア形成に役立つ授業群です。2009年度以降の入学者は二つの群から計2単位以上を、2008年度以前の入学者はそれぞれから1単位以上を、選んで受講してください。前期課程各専攻では、一部のインターンシップ専門実習など特別に相談が必要な場合を除き、専攻を超えて受講できます。

○専門基礎科目群および専門応用科目群○

各専攻において大学院修了者にふさわしい一般的能力の養成をめざす授業群です。

○実践基礎科目群および実践応用科目群○

高度専門職業人としてのキャリア形成のために、実践的に役立つスキルの修得をめざして開設された授業群です。

注意 インターンシップ専門実習、および専門・実践の4科目群の各科目を専攻を越えて履修する場合、指導教員および授業担当教員にご相談ください。

●修士論文等の作成

修論のためには、研究結果を論文その他の形にまとめ、審査を受けることが必要です。学術論文に換え、あるいはそれに併せてなんらかの制作物等を提出する場合には、あらかじめ指導教員に相談してください。

	博士前期課程		修了必要単位数
研究マネジメント科目群	合計2単位以上	合計24単位以上(住環境学専攻は20単位以上)	合計3 2 単位以上
キャリア形成科目群			
専門基礎科目群	合計20単位以上(住環境学専攻は18単位以上)		
専門応用科目群			
実践基礎科目群			
実践応用科目群			
論文等作成	8単位(住環境学専攻は12単位)		

●その他履修の仕方

*履修計画のたて方について

専攻毎に履修モデルを作成しています。ただしどの専攻も、分野が多岐にわたるため、あらゆるケースを網羅しているわけではありません。大学院進学のと将来の進路設計を明確にして、指導教員のアドバイスを受けながら履修計画を立ててください。

*学部授業の受講について

学部のキャリア形成科目(教職科目も含まれます)は、受講制限を超えて履修できます(修了要件単位にはなりません)。必要なものを計画的に履修してください。

*授業への参加について

大学院では、どの授業でも学生の主体的な参加を前提にしています。インターンシップなど学外の社会人の方と接触する授業では学生としての謙虚な態度に配慮しつつ、積極的な学習活動を行ってください。

*カリキュラムや受講についての相談

社会人としての制約による必修授業の受講方法その他履修の仕方について、指導教員、授業担当教員にもご相談ください。

■関連する授業一覧■

●23年度開講 研究マネジメント群およびキャリア形成群●

博士前期課程 研究マネジメント・キャリア形成群

群	科目名称	開講期	時間割	担当	備考
研究マネジメント群	専門応用英語	前期	集中	佐野敏行	
	専門応用英語	後期	集中	佐野敏行	*後期分も終了しました
	プレゼンテーション演習	前期	火7・8	鍛冶幹雄	
	プレゼンテーション演習	後期	火7・8	鍛冶幹雄	
キャリア形成群	女性研究者キャリア論	前期	不定期	成瀬九美 中山徹 松岡悦子	
	インターンシップ実習	前期	金7・8	鍛冶幹雄	企業訪問は不定期
	インターンシップ専門実習	不定期	集中	麻生武 本山方子 野村晴夫	人間行動科学専攻
	インターンシップ専門実習	前期	不定期	出田和久	国際社会文化学専攻 (奈文研)
	インターンシップ専門実習	前期	集中	松岡悦子	生活文化学専攻 ((公財) AFS日本協会、毎日新聞、南都銀行)

●23年度開講 各専攻授業一覧●

実践基礎・実践応用群の一覧です。

専門基礎・専門応用群についてはシラバスか CAMPUS LIFE をご覧ください。

博士前期課程 実践基礎・実践応用群

専攻	科目名称	開講期	時間割	担当	科目群	備考
国際社会文化学専攻	文化史総合演習	前期	水5・6	山辺規子 佐原康夫 <前川佳代>	実践応用	
	Web情報実習	後期	水5・6	佐原康夫	実践応用	
	地域環境調査法	不定期		相馬秀廣 西村雄一郎	実践基礎	
	GIS分析演習	後期	金3・4	石崎研二	実践基礎	
	地域・文化コンテンツ制作実習B	後期	火9・10	武藤康弘	実践応用	
	実践スキルゼミナール (社会調査)	前期	水9・10	林拓也 水垣源太郎	実践基礎	
人間行動科学専攻	実践スキルゼミナール (心理学Ⅰ)	前期	隔週木1-4	麻生武 <平井純子>	実践基礎	隔週
	実践スキルゼミナール (心理学Ⅱ)	後期	隔週木1-4	麻生武 <平井純子>	実践基礎	隔週
	スポーツ情報学演習	後期	金5・6	<佐久間春夫>	実践基礎	
	人体機能計測実習	後期	集中	藤原素子	実践応用	
	スポーツビジネストライアル演習	後期	月7・8	甲斐健人	実践応用	
生活文化学専攻	比較生活人類学演習	後期	木3・4	佐野敏行	実践基礎	
	企業文化論	前期	火5・6	<住原則也>	実践応用	
住環境学専攻	フィールドサーベイ	前後期	集中	中山徹 山本直彦	実践基礎	
	住環境設計特論	後期	集中	<城戸崎和佐>	実践応用	

* <>内は非常勤講師

★プログラムの改善について★

本プログラムは、学生の皆さんのニーズに応えるために機動的に改善を図ります。どんな相談でもプログラム全体の改善のために役立つので、遠慮なく適当な教員、あるいは本プログラム担当の教務補佐 (事務局常駐) にお伝えください。

■ 授業情報 ■

初回ガイダンス等の案内です。よく読んで、間違えないようにしてください。
このほかの授業に関しては、シラバスまたは掲示板で確認するか、担当教員へ直接確認してください。

- 研究マネジメント群およびキャリア形成群 -

プレゼンテーション演習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	火曜日7・8時限 ・11月29日(火)から6回予定
初回ガイダンス	* 初回ガイダンスは4月に行いました。
連絡先	鍛冶幹雄 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話:0742-20-3781
連絡事項	<ul style="list-style-type: none"> ・4/12に前期・後期分ともにオリエンテーションを終えています。 ・ただし、秋季入学者や追加希望者は 鍛冶 (mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp) およびTA横山さん(eriyokoyama5624@yahoo.co.jp) に連絡してください。詳細については相談します。
その他特記事項	

- 実践基礎・実践応用群 -

人体機能計測実習	
担当	藤原素子
開講計画など	後期集中
初回ガイダンス	10月6日(木)1コマ(9:00~10:30)
連絡先	藤原素子、motoko@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	受講を希望する人で、初回ガイダンスに来れない場合は、必ず初回ガイダンスの前日までにメールで連絡すること。
その他特記事項	

■学習支援体制■

●大学院GP（人社系）事務局

教務補佐員が常駐しています。機材・図書の貸し出し、GP
関連事業の各種受付を行います。

また発行物のバックナンバーもこちらで閲覧できます。

- ▶大学院 GP（人社系）事務局 新E棟 154 室
- ▶開室時間 月～金、10：00～17：00
(12：00～13：00 は休憩)
- ▶電話 0742-20-3523 (内線)
- ▶メール gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp
- ▶教務補佐員 久保美知子

■機材・図書の貸し出しを行っています。

貸し出し期間は機材は1週間、図書は1カ月が基本です。

■大学院 GP(人社系)ホームページの開設

<http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

プログラムの活動、院生自主企画、研究成果公開助成などの情報を公開していきます。

■メールニュースの配信

ホームページと同様に TA の募集や院生自主企画、研究成果公開助成などの情報をお届けします。

*メールニュースの配信は月1回（15日頃）です。

配信をご希望の方は、タイトルに「GP メールニュース配信希望」、本文に「名前、所属、配信先メールアドレス」をご記入の上、メールにて gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp まで
お送りください。次回配信分より対応させていただきます。

■ニューズレターの発行■

ホームページ、メールニュースと同様に、院生自主企画や授業報告などの情報を掲載していきます。発行は年
2回程度の予定です。

バックナンバーは事務局で手に入れることができます。

✿貸出可能機材（4月現在）✿

- ・ノートパソコン(A4、B5サイズ)
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・デジタルカメラ
- ・デジタルビデオ
- ・ポータブルMDレコーダー
- ・ICレコーダー
- ・卓上ベル
- ・プレゼンテーションリモコン
- ・ストップウォッチ
- ・延長コード

その他ご相談承ります。

★ポートフォリオシステム★

本人社系 GP に参加する各専攻の学生を対象にした、ポートフォリオシステムを利用して
いただくことができます。詳しくは下記 URL にアクセスし、「ポートフォリオシステム
の導入についてのお知らせと登録のお願い」および「登録の方法について（学生向け）」
をご覧ください。

<http://groups.google.com/group/folio-narajo/>

*お問い合わせは folio-narajo@googlegroups.com までお寄せください。

■自主活動支援事業■

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援を行います。いずれも募集要項をよく確認の上、必要事項を規定の応募書式に記入して、大学院 GP(人社系)事務局に期日内に提出してください。

各募集要項は本プログラム HP よりダウンロードするか、事務局までお問い合わせください。

● 院生自主企画支援 ●

大学院生の自主活動支援プロジェクトの一環として、“キャリア形成のための院生自主企画”の支援を行います。大学院生を企画者とするグループによる、専門職キャリア形成をテーマとした様々な自主企画を、下記の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。採択された企画に対しては、招聘する講師の方への謝金・旅費が支援されます。

募集期間：9月30日(金)～10月17日(月) 17:00まで

応募条件：

- ★セミナー等の開催日が平成23年10月～平成24年1月末日までの企画とする。
- ★応募は、複数名で協力して企画を実施できるグループ単位とし、各メンバーの役割分担を明記すること。(企画者1名のみでの応募は認めません)
- ★支援は、謝金、交通費、宿泊費(ただし近畿圏以外の場合について1泊分)のみが対象。その他の費用は企画者が負担すること。

企画概要書の提出方法：

応募書式(エクセルファイル：大学院 GP(人社系)事務局に問い合わせもしくは本 GP ホームページから入手してください)に、必要事項を記入して期日内に提出してください。

提出先・問合せ：

大学院 GP(人社系)事務局 新 E 棟 E154 室に期日内に提出してください。

(印刷したものと、エクセルに入力したものを両方提出すること)

注意：

- ★1 件の企画に対する助成額の上限は概ね2万～5万円程度と考えてください。従って、複数の講演者を招聘する企画等で遠方の講演者が多数となるなど、申請予算が過大になる場合、招聘予算の減額を採択要件とするか、予算上限以内で申請された他の応募企画の採択を優先する場合があります。すなわち、旅費が高額となる場合、謝金の支払いをなしとするなど、申請段階で助成上限を超えないような予算計画がたてられているかも、選考の判断要件とします。
- ★招聘する講師は、できるだけ近畿圏内の方をお願いします。予算総額に上限があるため、多数の応募があった場合、招聘講師の交通費・旅費の額が選考の判断要件となる可能性があります。

企画の採択の可否について：

採否については、平成23年10月下旬ごろに、セミナー企画代表者への通知を予定しています。

● 研究・活動成果公開のための研究集会参加助成 ●

* 若干名再募集します *

大学院生のキャリア形成活動支援プロジェクトの一環として、大学院生の研究・活動成果公開のための研究集会・講演会などでの発表のための応募参加登録に要する費用に対する支援を行います。下記の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

募集要項（大学院 GP（人社系）事務局にお問い合わせ、もしくは大学院 GP（人社系）ホームページから入手してください）をよく読み、申請書と必要書類を揃えて大学院 GP（人社系）事務局に提出してください。

申請締め切り： 10月5日(水) 17:00 まで

申請書類提出先： 大学院 GP（人社系）事務局（新 E 棟 E154 室）

応募資格者：本 GP 対象 6 専攻所属の大学院生

助成対象：

平成 23 年 10 月～平成 24 年 1 月末日までの間に開催される学会や学術団体主催の学術講演発表会やシンポジウム等にて、応募者が口頭講演を行う場合（ポスター発表は含まない）における参加登録費を対象とします。

助成額の上限は 1 名あたり 1 万円までとし、同一応募者による複数の発表会・シンポジウムに関する応募も認めます。

■本プログラムの概要■

本プログラムは「大学院教育振興施策要綱」（平成 18 年 3 月 30 日）の策定をうけてはじまった「組織的な大学院教育改革支援プログラム（旧名称：大学院教育改革支援プログラム）」として平成 20 年度に採択され、平成 23 年度より、学内措置で継続しているものです。

このプログラムでは、特に高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図るため、従来の教育カリキュラムの実習・実践的な側面を強化して、大学院生の皆さんのキャリア形成を支援します。

●基本的な特徴●

歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成しています。

各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成します。

●イニシアティブ事業の継承●

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の 2 つの科目群についても各々の授業の改善を図ります。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業（平成 17 年度採択）を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を充実させています。

●評価方法の改善●

この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とします。

●学生自主活動支援事業●

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援します。自主的な研究会・セミナーなどの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざします。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出します。

また学生の研究発表会への参加について、学生個人の口頭発表を経済的に支援します。

